

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 8月えんだより

8月聖句：「わたしは雲の中にわたしの虹を置く。」

<創世記9章13節>

朝早くから蝉の鳴き声が響き渡り、晴天の日が続きますと夏本番の到来を感じます。時には夕立のように激しく雨が降る日がありましたが、雨が通り過ぎ、空には、目にも鮮やかな虹が掛かり、時が経つのを忘れてしまうほどの自然現象に見入ってしまった時もありました。虹は、神様から人間への贈り物であり、希望の約束とも言われています。

聖書において「虹」は「弓」を意味する言葉で、その弓が引かれることは決して無いことを表しています。すなわち、大空にかかる虹に、武器が置かれた様子をイメージしているということです。それは戦いが終わり、その弓が引かれることが無い「平和」を意味するということなのです。又、虹は、神様と人間の間立てられた「約束の印」というのです。その約束は、この世界に生きる一つひとつの生命を、いつまでも祝福するという約束です。この約束は今を生きる私達だけではなく、未来に対する約束であり、この地上に生きる全ての生命の間立てられた契約であるということです。その「約束の印」が、雲の中に現れた虹でした。神様は弓の矢で射るようなことを決してしないということなのです。更に、聖書では「虹」は「平和の印」であり「多様性の印」とされています。一人ひとりには違いがあり、その違いが尊重されるべきことのシンボルとなっているのです。あらゆる差別や暴力の解消と多様性、人権の尊重を訴える共通のシンボルともなっています。一人ひとりに違いがあり、それが、かけがえのない「その人」を形づくっています。私達はそれぞれに、世界でただ一人の存在であり、互いに違いがあり、多様性があるのは当然です。つまり代わりがない存在であることを示しています。

しかし、「平和の印」「約束の印」「多様性の印」である虹を、私達は見失うことがあります。武器を置くのではなく、手にとって、互いに殺し合う戦争が起こっています。心の中で、弓の矢を誰かに向け、傷つけてしまうことがあります。又、虹を見失って、身勝手さにより未来の責任を放棄し、自然環境を破壊している現実もあります。一人ひとりが神様の目から見てかけがえのない存在であることを忘れ、他者を自分と同じ色にしてしまい、自分と違う色の人を、差別や偏見の眼差しで見ってしまうこともあります。このように、平和ではない現実が、社会の至るところにあります。虹を見ると圧倒的な美しさに願いを込めるように、命と尊厳が大切にされるように、祈りを合わせていきたいと願います。

年主題 「ともにつむぎだす」～希望の中で～

8月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	たのしい	たのしむ
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *夏の生活をゆったり健康に過ごす *周囲の人や物とふれあい、興味を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> *平和を考え、願い、共に祈る *家族や保育者とゆったりとした時間を過ごす *夏の遊びを大胆に楽しむ
	ちから<幼児讃美歌Ⅱ15>	うみでおよぐ<幼児讃美歌28>